

印西大師 旧第77番 砂田・虚空蔵堂跡 ※

- 1 名称 (No.175)〔手引鏡：虚空蔵堂〕
- 2 場所 印西市小林1486付近 墓地
龍湖寺から道程約720m。龍湖寺から北東方面へ田んぼ道を進んだ突き当りに墓地が見える。
GPS座標 35.82249842031523, 140.19562747277072
- 3 由緒 不明
- 4 御堂 なし
- 5 境内 共同墓地で、道沿いに大きな石碑（砂田耕地整理記念碑）があり、古い石造物が集められている。
- 6 写真 (2022.10、2022.11撮影)



田んぼ道の先に見える墓地



古い石造物



古い石造物



砂田耕地整理記念碑



古い石造物



古い石造物

7 情報

(1) 手引鏡

明治初期の手引鏡では、龍湖寺から虚空蔵堂まで5丁半6間（610m）、虚空蔵堂から西福寺まで4丁（436m）。この距離を明治40年の古地図に落とすと現在の墓地のあたりと考えられる。

（下の左図参照）

(2) 迅速測図

明治初期の「迅速測図」には、この墓地付近に「虚空堂」という文字と、「卍」らしき記号が記載されている。（右図参照）



(3) 小林村鏡

天保年間(1830～43年)に作成された「小林村鏡」には「小林字辺田方虚空堂の上に古城址有之候」との記載がある。「字辺田方」が現在のどこなのか不明であるが、古城址＝小林城址と仮定すると、その下に虚空堂があることになる。(墓地のあたりは、現在の地名では小林字城山、墓地の南は小林字六番割で、近くに辺田方という字が見当たらない。)

(4) 2022.10現地調査

現地に行ってみると、墓地に御堂はなかったものの江戸時代の石造物がいくつも残されているので明治期には(迅速測図で虚空堂と表示されるくらいだから)やや大きめの御堂があったのではないかと推測される。砂田は比較的大きな集落なので第77番札所があったとしても不思議ではなく、この墓地が印西大師旧第77番の虚空蔵堂跡ではないかと確信した。これを確認するため近所にお住まいの方に虚空蔵堂について聞いてみたが、残念ながら知らないとのことであった。

(5) 遷座

明治4年に作成された手引鏡には「第77番 砂田 虚空蔵堂」とあるが、明治39年の梶原納経帳では第77番に小林西福寺の名が出てくるので西福寺が管理していた御堂であろう。その後「白井新田」に遷座(昭和10年代当初か?)され、さらに昭和55年に師戸・広福寺に再遷座されている。

砂田地区は田んぼも広く豊かな土地なので札所の二つくらいは十分維持できたと思われるが、第48番札所を西福寺に残して、虚空蔵堂の第77番札所を白井新田にプレゼントしたものであろうか。遷座の理由が不明である。

二度の遷座の際に、大師像も一緒に移されたのか。そうならばかつて虚空蔵堂にあった大師像は、白井新田を経て、現在広福寺にあるものがそうなのだろうか。それとも遷座先では大師像を新調し、虚空蔵堂の大師像は近くの別のしかるべき場所へ移されたということはないだろうか。近くの札所を見ると、砂田・西福寺の大師堂に2体の大師像がある。このうちのひとつが虚空蔵堂のものかと考えられないこともない。遷座されたとき大師像はどうなったのだろうか。



師戸・広福寺の第77番の御大師様

(参考) 東葛印旛大師の例ではあるが、大正11年(1922年)に第16番札所が遷座する際に「弘法大師石像 壺鉢」が移されたこと記した「奉迎証文(ほうげいしょうもん)」(札所を迎え入れるための証文)が残されているので、遷座とは石像が移動するということのように思う。

https://www.city.kamagaya.chiba.jp/smph/sisetsu/kyoudo_2/nanisuru/nanisuru18.html

(6) (参考) 印西大師 第77番 広福寺 御詠歌(泉倉寺本による)

願(ねがい)をば佛道隆に入り果て 菩提の月を見まくほしさに

四国八十八ヶ所 第77番 真言宗醍醐派 桑多山(そうたざん) 明王院 道隆寺(どうりゅうじ) 写し